



農業委員会だより

発行 中野市農業委員会

編集 農業委員会だより編集委員会



みなみ保育園児を招いたスイートコーンの収穫体験

農業委員会の活動について

会長 高橋 幸造

農業委員会だよりの発刊に寄せて、一言ごあいさつを申し上げます。

日ごろ、中野市農業委員会に対しまして、ご理解、ご協力を頂き、感謝申し上げます。

さて、最近の農業を取り巻く情勢は、価格の低迷、担い手不足や高齢化、遊休荒廃農地の増加、TPPをめぐる情勢など、大変厳しいものがあります。特に、円安による燃料や資材価格の高騰による生産コストの上昇により、本市農業にとりましては、極めて深刻な事態となっています。

さらに、国では規制改革会議において、農協、農業生産法人、農業委員会等改革を3点セットで断行しようとしています。これは、企業の農業参入の促進を目的としております。

また、農業委員会関係では、農業委員の公選制廃止、非農家委員を含めた首長による選任化、委員定数の縮減（5、10人程度へ）、建議などの廃止、許認可権限の首長への移管、系統3段階の解体、企業

の農地所有の解禁、農地転用基準の緩和、農地利用最適化推進委員の設置などを進めようとするものです。農業委員会としては、これら経済界や大企業の経営観点からの改革案に反対し、農業の再生、発展に向けた施策を提案して参りたいと考えております。

また、農業委員会では、遊休荒廃農地対策として昨年からトウモロシの試験栽培や販売に取り組んでいます。今年度は、みなみ保育園の園児を招いて、種まきや収穫作業を行いました。これは、食育や農業の大切さを学ぶ目的で行いましたが、園児と農業委員が楽しく作業ができ、農業の魅力や興味を持つてもらえたようで、中野市農業の将来に期待が持てるような企画となりました。

結びに、我々農業委員は、農業者の代表として農地を守り、担い手確保に努め、力強い農業・農村を作るため、頑張ってください。引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。

農地部会の活動

農地部会長 池田 好明

農業は、食の安全・安心のほか、農地・水・自然環境の保全といった大切な役割を担っています。

今日の農業は、農産物の価格の低迷、就農者の高齢化、担い手不足などにより、年々、耕作放棄地が増加しています。

この中で、政府が進める農地集積を図るための農地中間

今年度の農地部会事業計画は次のとおりです。

- ① 農地法の指導徹底
- ② 無断転用の防止活動
- ③ 農地パトロールの実施
- ④ 無断転用農地と遊休荒廃地の解消指導に従わない所有者に対しての指導
- ⑤ 耕作放棄地をなくすための行政との連携会議
- ⑥ その他必要な活動

関係各位のご協力をお願い申し上げます。

農政部会の活動

農政部会長 北村 忠彦

日本のそして中野市の農業を考える時、一番思うことは10年後、20年後どうなってしまうかです。

まず就農者が今の3割位になってしまうのではないのでしょうか。また2人に1人が癌になるといわれる今、一番気になるのが1日10グラム以上摂っているという食品添加物です。

既に野菜、果物は、ほぼ100%輸入自由化されてい

ますが、TPPを考えると、子どもや孫たちの食の安全が守れるかということ。そして今また、農業のことを理解しない企業経営者や政治家や学者らによって、農地、農業委員会制度、農協などが彼らに都合いい



今年度の農政部会事業計画は次のとおりです。

- ① 農政懇談会の開催及び各種懇談会への参加
- ② 認定農業者の普及推進
- ③ 農業者年金への加入推進
- ④ 全国農業新聞の購読普及
- ⑤ 市内、近隣市町村の視察研修
- ⑥ その他必要な活動

北信五市農業委員研修会に出席して

池田 和敏

8月27日に、飯山市瑞穂の「文化北竜館」において、北信五市農業委員研修会が開催されました。

第1部は、長野県農業会議事務局長の宮島明博氏による「農業委員会を取り巻く情勢と課題について」という演題で講演があり、規制改革会議の答申に基づいた農業委員会などの見直しについて、「選挙・選任方法の見直し」、「農業委員会の事務局の強化」、「農地利用最適化推進委員の新設」など大きく変わる制度について説明がありました。

未だに流動的な部分があるにせよ、大筋では改革会議の答申の通りに変更され、来年の5月から6月の通常国会で法案が成立する見通しとのことでした。

第2部は、「中野市農業と農業委員会の取り組み2014」と題し、中野市農業委員会振興部会長の中村秀人氏が、「中野市農業の現状や課題について」、「中野市農業の将来展望について」など具体的な例や数字を挙げながら分かり易い発表をされました。後段は「中野市農業委員会並びに振興部会の活動について」という内容で、今年、特に遊休農地対策として取り組んだ、トウモロコシ栽培に力点を置いて報告され、4回の消毒により害虫を駆除できたことや、保育園児を交えた収穫作業を行ったことなどを発表されました。



▲研修会の様子

最後に他市の農業委員さんから多くの質問を受け皆さんに興味を持っていただき、中野市農業委員会の活動が高く評価されたものと思えました。

振興部会の活動

振興部会長 中村 秀人

今年度の振興部会の事業計画は次のとおりです。

- ① 農業・農村の振興活動
農業後継者対策として、中野市新規就農者支援事業協議会での審査
- ② 遊休荒廃農地の活用対策
廃農地解消を推進するため昨年より取り組みを始めたトウモロコシ栽培の展開
- ③ 利用権設定の推進
- ④ 担い手農家への農地の集積推進
- ⑤ 市内、近隣市町村の研修視察
- ⑥ その他必要な活動

この様な取り組みの中で、8月27日に開催されました北信五市農業委員研修会において事例発表しました振興部会の取組みの一部をご紹介します。荒廃農地解消を推進するため、昨年よりトウモロコシ栽培を始めました。昨年やっとな契約取引先が見つかり、いよいよ収穫というとき、トウモロコシの皮をむいてみると端からアワノメイガの幼虫に食

べられていました。出荷するも返品されるという屈辱に、改めて栽培の難しさを実感しました。

今年、「楽しんで楽しむから、でも虫には絶対負けなぞ！」というテーマで再スタートを切った次第です。

更に、委員だけでなく次世代を担う子どもたちにも農業の楽しさを学んでいただき、将来的に農業のやりたい人が増えてほしいとの思いから、

みなみ保育園の園児と一緒に活動を行いました。4月30日には、保育園児を招いて種まきを行い、野菜ソムリエの増田朱美さんにトウモロコシと農業の興味深いお話をしていただきました。

その後、一連の管理作業を行い、害虫対策においては同じ失敗を繰り返さぬよう、こまめに薬剤防除を行った結果、わずかな虫食いで済みますことができました。

また、7月25日には、園児と再会しての「収穫祭」を行いました。その場でトウモロコシを茹でて試食しながら獲りたての美味しさを味わい、

「農家って、いつも一番最初においしいものが食べられるからすごいんだよ」とアピールしました。

今年、野菜全般の価格の安さとイベント出費がかさみ収支的には厳しいものがありました。テーマである「楽しんで楽しむながら荒廃地対策を行う」という観点、「作業時間を削減し楽できた」という意味では大成功だったと思っております。



▲トウモロコシの収穫祭の様子

今後、大規模な荒廃地対策への課題を残しつつも、それぞれの皆様のご健康でご活躍されますことをお祈りしながら報告とさせていただきます。

経営とくらしを応援!!

全国農業新聞

を購読しませんか

全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門誌です。
農政の動きをはじめ、農業技術や税制解説のほか経営・流通の最新情報などが満載です。

○発行日 毎週金曜日
○購読料 600円/月

お申し込みは、お近くの農業委員、または農業委員会事務局へご相談ください。

一人ひとりの農業者を応援する

農業者年金

国が支える 安心が大きくなる

担い手積立年金

農業者の老後の備えは、国民年金プラス**農業者年金**が基本です。
農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは、農業委員会もしくはJA中野市金融推進課へご相談ください。

北信州農村女性のつどいに出席して

佐藤 則子

8月29日に北信州農村女性のつどいが、「地域からの発信、北信州から！」をテーマに中野市豊田文化センターにおいて開催され、実行委員として参加してきました。

開会前より、北信州の元気な農家の母ちゃん達の12団体によるフリーマーケットが開店。大盛況で完売状態でした。つどいでは、中野市長の講演と、LLPぼたんこしやう

ファーム、下高井農業青年の会、中野市売れる農業推進室の3つの事例発表がありました。

市長は、「地域からの発信」と題して講演。女性の感性は地域の感性の重要な要素で、ヒット商品は女性の感覚で誕生している。女性の視点で、食だけでなく新しい暮らし方、価値観の提供を望んでいる。一度できたつながりを発

展させ、また足を運んでもらえるよう情報発信することが大事である。とのお話に納得し、女性の活躍が期待されていると感じました。

また、LLPぼたんこしやうファームについて大内ふじ子氏が取り組みを発表。信州の伝統野菜に認定された「ぼたんこしやう」を守るため平成20年から「斑尾ぼたんこしやう保存会」を作り栽培している。価格低迷、B級品規格外品が多いなどの課題解決のため、平成24年に16名で「有限責任事業組合(LLP)」を設立。6次産業法人にも認定され、加工品販売にも更なる力を入れ、活動の成果も現れ



▲北信州農村女性のつどいの様子

ているとのことでした。つどいに参加して活動のヒントを得ることができ、今後に活かせるよう頑張りたいと思います。

農地パトロールについて

清水 隆一

食料の安定供給を図るための重要な生産基盤である農地の有効利用を図るため、中野市農業委員会では8月から9月の2カ月間を「農地パトロール月間」として、①遊休農地の実態把握と発生防止・解消、②農地の違反転用発生防止対策などについて重点的に取り組んでいます。

平成20年から実施しているこの調査ですが、担当地区を回ってみれば、年々遊休農地は増え、場所の悪い農地ほど荒れていると感じますし、農地は一度耕作をやめて数年経つだけで、原形が分からないほどに荒れていってしまいま

す。遊休農地は、農地集積に支

障をきたすだけでなく、周辺の病害虫発生を助長し、有害鳥獣の隠れ場所になるなど農業振興に悪影響をおよぼします。

また、ごみの不法投棄、火災発生の原因になるなど生活環境への悪影響も考えられますので、適正な管理をお願いしたいと思います。

平成26年より農地利用の効率化、高度化の促進に向け「農地中間管理機構」が創設され、遊休荒廃農地対策の強化が図られ、農地を守っていく方策



▲豊かな農地を守りましょう

が出されました。耕作放棄をする前に、まず、農業委員会に相談してみてください。

編集後記

編集委員長 小林成雄

最近、県内でも農地を転用して太陽光発電設備を設置する取り組みや、農地に支柱を立てて営農を継続しながら、上部空間に太陽光発電設備を設置する取り組みがなされています。

そこで長野県農業会議では、太陽光発電設備に関する、ガイドラインを発表しました。

その主な内容は、営農の適切な継続、栽培作物の転換、支柱の最小限面積、空間の確保、周辺農地への支障、撤去に必要な資力等が検討要領として示されています。

また転用許可の更新については、適切に営農が継続されているかが判断されます。

なお、詳細は農業委員会へお問い合わせください。